「学生参画」を学生の視点から考える

成城大学　吉野萌木子　堀内琉晴　杉本翔太(成城大学ピアサポーター)
植木紀之　肥田奈緒子　川面きよ(教育イノベーションセンター)

はじめに

学生参画が注目される背景には、大学教育のあり方が大きく変化し、質保証において「学生の視点」が不可欠になってきたことが挙げられる。
こうした背景を踏まえ、本発表では、成城大学ピアサポーターの活動を「学生参画」の一事例と位置付け、その実践を紹介するとともに、**当事者である学生の視点から振り返ることで「学生参画」の意義や課題を検討する。**

学生参画の3類型

学生参画の領域は、Healey et.al.（2010: 22）の分類に基づけば、主に下記の三つに整理できる。

◆**ミクロ**：学生個人や他の学生の学修活動への参画
例：**ピアサポート活動**への関与など
◆メゾ：質保証・向上プロセスへの参画
例：学生FDへの参加など
◆マクロ：戦略策定（ガバナンス）への参画
例：教員学生協議会への出席など

本発表で取り上げる成城大学ピアサポーターの活動は、主にミクロ領域に位置付けられるが、その一部はメゾ領域とも重なりを有している。

引用：田中正弘（2024） 全国私立大学 FD 連携フォーラム（JPFF） 2024 年度シンポジウム _ スライド

成城大学ピアサポーターとは

2017年4月に創設され、「**教職学協働**」を基本理念として、学生が学生の学習アドバイスや学習サポート等を行う団体である。メンバーは、ファシリテーションやコーチングの研修を修了しており、単なる学習指導に留まらない「**相手に寄り添うサポート**」を大切にしている。

近年は、加入者の増加に伴い知名度・影響力が高まったことで、大学からの提案に「**学生視点ならではの価値**」を付加し、「**大学運営の一翼を担う**」存在へと成長している。

新規加入者数

成城大学ピアサポーターが考える学生参画とは

学生参画とは、学生同士が**互いを尊重しながら**主体的に行動し、
教職員と協働し合う中で、自分自身と組織の成長につなげていく活動である。

事例紹介

成城大学ピアサポーターでは、学生が主体となり様々な学習支援活動を行っている。

公式SNS
HP　Instagram　X

【入学準備プログラム】

年内入試による入学予定者を対象に、入学前の不安を払拭する取り組み。

入学予定者が学問の魅力を前向きに感じられる企画を実現し、事後アンケートでは参加者の80%に最高評価をもらった。

【時間割相談会】

新入生や在学生が履修登録を行う際に、知識の提供やサポートをする取り組み。

新入生の44%におよぶ626人を個別対応し、一度に大勢に対して行った履修セミナーには1000人以上の動員を記録した成果から学生活動奨励賞を受賞。

学生参画ポイント

教員からの研修と改善の提案

学内教員からの事前研修後、学生自身がプログラムのロールプレイを体験した。課題や改善点を話し合い、内容の改善案を提案した。

学生から提案した事前研修

プログラム実施に必要となるチームビルディングを強めるため、**学生から研修内容を企画・提案**した。事前に職員と協議を重ねながら準備を進め、研修の実施に至った。

学部教員との連携

学生が中心となって当日の運営を行った。企画の一つであるクイズについては学生による作成だけでなく**学部教員にも協力を依頼**し、連携して作成した。

学生同士の情報共有

ピアサポーター同士で相談対応のデモンストレーションや履修登録に関する情報を共有する時間を設けた。

職員との連携

受付からアフターフォローまで学生が主体となって行った。また学生では対応できない質問に関しては教職員との連絡ツールを確保のうえ、各種窓口を案内するなど、職員とも連携しながら運営した。

学長との懇談会

後日、学長・副学長等と新入生から多く出た質問内容や『履修の手引』の活用方法等、**大学側に対策してほしい事項について意見交換**を行った。

組織の成長

イベントの連続性

これらイベントへの参加が新入生にピアサポーターへの加入を促し、その他イベントへも主体的に参加するという連鎖的な循環構造が形成されている。また、継続的な実施を通じて**参加者数の増加と入部の活性化**が促進され、組織全体の発展につながる好循環が生まれている。

教職学の関係性

学生だけでは実現できることに限界があること、職員や教員との連携により**企画の質を高められる**ことを学んだ。様々な話し合いがより良いイベントや大学運営の実現につながり、関係構築の重要性を強く認識した。

意思決定過程の強化

学生の提案は全てがそのまま実現されるのではなく、関係配置との連携や全体のルールを踏まえて検討・実施する必要があることを学んだ。

個人の成長

課題解決力

大学から提示された課題を学生ならではの視点で再解釈し解決策を立案する力、また学生自ら課題を発見し解決に向けて試行錯誤する力が養われた。

調整力

学生間や学生と大学間の意見の相違があった際に、情報を整理し、それぞれが**納得するかたちに合意形成をする力**が身に着いた。

実行力

目標に向かって、修正を加えながら常により良いものを目指し、**責任をもって粘り強く完遂する力**を習得した。

今後のあり方

**私たちは、大学運営の一翼を担う責任感やプロセスそのものに価値を感じるからこそ、ピアサポート活動を続けている。
だからこそ、今後大学は学生に「責任ある役割」を任せ、学生は大学運営に「能動的に関わろう」とする姿勢が重要であると考える。
そのために、組織として教職学の関係性をより一層に強化することや、個人として研修などを通してスキルを向上させていくことが求められる。
私たちは大学と学生を繋ぐ架け橋として、常に変わり、挑み続ける集団でありたい。**